

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第10週 (3/4-3/10) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		10週	9週	8週	7週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	3/4-3/10	2/25-3/3	2/18-2/24	2/11-2/17	2/25-3/3
			10週	9週	8週	7週	9週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	3 0.17	7 0.39	2 0.11	34 0.26
	咽頭結膜熱		1 0.06	1 0.06	2 0.11	1 0.06	33 0.25
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		34 1.89	44 2.44	46 2.56	38 2.11	438 3.32
	感染性胃腸炎		106 5.89	105 5.83	93 5.17	84 4.67	645 4.89
	水痘		9 0.50	16 0.89	10 0.56	9 0.50	51 0.39
	手足口病		1 0.06	2 0.11	0 0.00	0 0.00	7 0.05
	伝染性紅斑	○	17 0.94	12 0.67	18 1.00	21 1.17	84 0.64
	突発性発しん	○	9 0.50	5 0.28	8 0.44	4 0.22	32 0.24
	ヘルパンギーナ		0 0.00	2 0.11	0 0.00	0 0.00	6 0.05
	流行性耳下腺炎		3 0.17	0 0.00	3 0.17	3 0.17	6 0.05
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		83 2.96	168 6.00	203 7.25	298 10.64	1,185 5.59
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		1 0.20	3 0.60	1 0.20	1 0.20	11 0.31
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	画像検査	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	男性	50歳代	IGRA検査等	百日咳	男性	10歳未満	抗体の検出
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	女性	10歳未満	抗体の検出等
結核	女性	50歳代	IGRA検査	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出

・第10週は、結核4件(28)、梅毒1件(7)、百日咳2件(21)、風しん1件(10)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

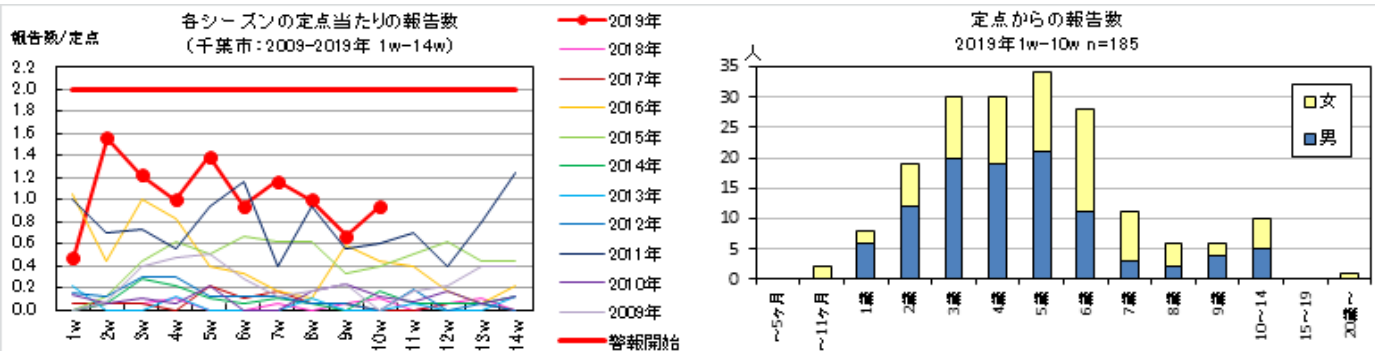
定点当たり報告数 第10週のコメント

＜伝染性紅斑＞前週より増加し0.94となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。
＜突発性発しん＞前週より増加し0.50となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

トピック

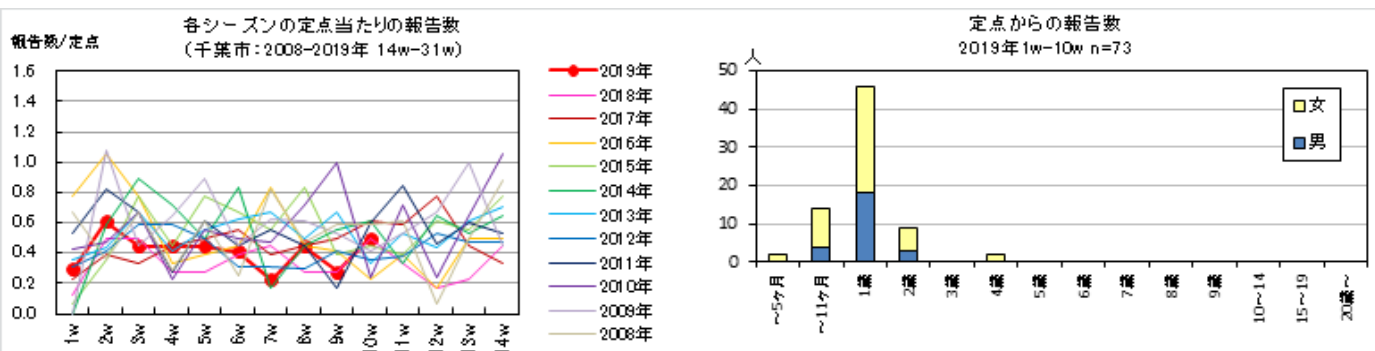
<伝染性紅斑>

全国レベルの第9週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、沖縄県、新潟県、石川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市では第2週から減少傾向となっていますが高い水準で推移しており、第10週は前週より増加し0.94となりました。過去10年の同時期と比べると最多のままとされています。区別の発生状況は、稲毛区及び若葉区(共に2.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)と並び最多で、稲毛区では6歳で最も多く、若葉区では2歳、3歳、8歳及び10歳代前半で発生報告がありました。2019年第1週から第10週までの累積報告数は185件で、性別では男性が55.7%(103名)、女性が44.3%(82名)となっており、年齢階級別では5歳(18.4%:34名)、3歳及び4歳(16.2%:30名)の順で多くなっています。



<突発性発しん>

全国レベルの第9週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、佐賀県、熊本県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第10週は前週より増加し0.50となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなりました。区別の発生状況は、稲毛区(1.33/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第10週までの累積報告数は73件で、性別では男性が34.2%(25名)、女性が65.8%(48名)となっており、年齢階級別では1歳(63.0%:46名)、6~11か月(19.2%:14名)、2歳(12.3%:9名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第9週の累積報告数は768件で、昨年の同時期と比べると200倍近くとなっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く、関東地方で多く報告されています。千葉市では第10週に発生報告があり、2019年の累積報告数は10件となりました。性別では男性が70.0%(7名)、女性が30.0%(3名)となっており、年齢階級別では30歳代(50.0%:5名)、40歳代(40.0%:4名)、10歳代(10.0%:1名)の順で多く、30歳代~40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の90%を占めています。

